

一つの時代を駆け抜けた仲間達

空手道部



今も衰えぬ見事なケリ



全日本大会出場の話で盛り上がった

突きと蹴りとは空手の技よ  
 妙は虚実の間にあり  
 五条の訓えは道一筋に  
 熱と意気地の血が燃ゆる

どんな時、どんな事でも「押忍!!」。学生運動の余韻が残るS47年S48年に入部した仲間。心の隅にある「受験から開放されて、楽しく遊びたい……」という欲求を押さえ、空手の道に飛び込んだ仲間でした。

当時は、空手はまだ国体競技に採用されておらず（採用は昭和56年の滋賀国体から）、大学毎に「構え」や「技」に各々の特徴がありました。

諸先輩方の厳しくも温かいご指導のお蔭で九州予選を突破して、日本武道館で開催された全日本大学空手道選手権大会（昭和50年）への出場を果たしたのであります。

しかし、ここで大きな課題が……。遠征費の捻出です。体育会他部に比べて、必ずしもOBの組織化ができておらず、どうやって資金を集めるか？東奔西走して資金を集めてくれたのが、野村聡君（昭和52年卒、三菱重工業を経て、グループ会社MHIパーソネル社長、東京四極会副理事長）でした。

彼の想いと努力がなければ全日本大会初出場は実現出来ませんでした。

この時のメンバーが3月17日、別府亀川温泉に地元大分は勿論のこと、兵庫県、福岡県、熊本県から集結しました。

（顧問の大谷真忠先生は急用にてご欠席。来年喜寿のお祝いを開催する予定です）

当時の稽古話で盛りに盛り上

がり、あつという間に「押忍」の世界に浸ったのであります。

鍛え鍛えしこの鉄腕も  
 由来空手に先手なし  
 高くそびゆる理想の道に  
 男意気地の血が燃ゆる

男意気地の血が燃ゆる

大分大学 空手道歌

▼出席者（敬称略）

幸善治、七蔵司郁（51年卒）、  
 廣池和美、二宮英治、田中秋博、  
 松下武俊（52年卒）